

上手な「転び方」

学生時代、スキーを習っていた時のことです。

若手のスキーコーチの指導を受けながら、  
急な斜面を滑る練習をしていました。

うまく滑れずに転び続けていた私に、  
その若手コーチは、実に根気よく、  
懇切丁寧にアドバイスをくれます。

しかし、何度トライしても、  
なかなかうまく滑れません。

そのため、  
自分にはスキーは向いていないのかと  
自信を失いそうになり、  
さすがの若手コーチも、  
すこし諦め気味になってきたとき、  
それを近くで見ていた年配のコーチが  
やってきて言いました。

大丈夫だ。  
君は「転び方」が上手い。  
きっと上達するよ。

この言葉に励まされて練習を続け、  
急な斜面もうまく滑れるようになりました。

そのときのことを振り返って、  
いま、思います。

自分が励まされたのは、  
「転び方が上手い」と褒められたからではない。

褒めるところのない状態において、  
「転び方」を褒めてまで、  
上達を信じてくれる人がいた。

そのことに励まされたのです。

その人の可能性を信じること。

それは、我々が大切な人に捧げ得る  
「最高の贈り物」なのかもしれません。